

## 九州における林間放牧の実施概況について

林業試験場九州支場 黒 木 重 郎

混牧林に関する研究の一環として、現在実施されている林間放牧の概況を把握し、本研究の基礎資料を得るため、この調査を行なった。

この調査にあたり、ご協力を賜った各県の係官、また種々ご助言をいただいた大西支場長、吉木育林部長、本場経営部営農林牧野研究室の井上室長に厚くお礼申し上げます。

### 1. 資料の収集

実施者の紹介、経営内容の調査を各県に依頼し、資料を収集した。

### 2. 実施概況

(1) 放牧および放牧地の概況：放牧の概況は表—1のとおりで、総事例数は58例である。鹿児島県<sup>1)</sup>によれば、昭和40年7月に86カ所、宮崎県<sup>2)</sup>によれば昭和42年に45事業体の事例があり、当時にくらべ減少している。沖縄県には事例がない。

各放牧地の概況は、標高が一般に100～700mで、平均傾斜度は10～30°が多く、30°以上の急斜地は若干であった。

(2) 林況：林地面積は一般に個人営が小さく、利用対称林地はスギ林を主体に2～4樹種を組み合わせた事例が多く、単一樹種の利用事例はスギが12例のほかは若干にすぎなかった。林令は2年生～25年生で、スギ、ヒノキ、マツ、クスギ・ナラ（主としてクスギ）についてみると、6～15年生の利用事例が多く、その平均胸高直径は3～10cm、平均樹高が2～9mに多く分布していた。

上記4林地のhaあたり植栽本数は2,000～4,000本で、ヒノキは3,500本、他の3樹種は3,000本植栽が多く、うっぺい度は50～75%の林地が多い。

林内植生は各地とも、ススキが優先種となり、チガヤ、ササ、クズ、ワラビ、キク科の植物などで構成されている個所が多く、また、オーチャードグラス、イタリアンライグラスなどの牧草を導入している事例も若干みられる。

(3) 放牧管理：放牧は林地を1～5牧区に区画し、定置または輪換方式をとり、放牧時期は春～秋期の昼

夜放牧が多いが、周年、春～秋期の昼間、夏期放牧の事例も11例があった。

畜種は主に肉用種の子牛～繁殖牛を用い、乳用種を用いているものは少ない。

放牧頭数は面積との関連が大きく、したがって個人営は頭数が少ない傾向がうかがわれた。個々の面積と頭数からhaあたり放牧頭数を求めた結果、夏期放牧が多頭数を用い、また僅かではあるが周年放牧にも、その事例があった。これら若干の例を除いたhaあたり頭数は4頭以下にあり、とくに1～2頭の範囲が多いことをたしかめた。

放牧期間（周年放牧を除く）は地域で若干異なるが、一般に4～11月の範囲が多い。なお、放牧期間中に補助飼料として濃厚飼料を日1頭あたり1.5kg内外を給与している事例もみられる。

### 3. 放牧の得失

経営者から回答のあった主な事項について表—2に示した。経営者の殆んどは放牧の効果を認めているが、反面若干の不利な点も指摘されている。

### 4. 考 察

林間放牧は私有地あるいは借入地において経営されている場合があり、私有地においては経営者の志向により、林業と畜産のいずれか一方に重点をおくこともできようが、借入地においては、林、畜共通の利益を満足させることが要求される。この調査により、経営者間における経営内容に若干の相異点がうかがえる。とくに放牧期間については各地で短期あるいは比較的長期にわたっている事例もみられるので、この点を考慮し、林況、とくに林内植生、放牧管理や家畜の採食利用度などについて、今後実態調査により検討したい。

### 参 考 文 献

- (1) 鹿児島県林務部造林課：造林放牧のしおり、昭41. 8.
- (2) 宮崎県林業指導課：混牧林。

表一 林間放牧の実施概況 (昭49年現在)

区 分		総 数	県 別						
			福 岡	佐 賀	長 崎	熊 本	大 分	宮 崎	鹿 児 島
総 事 例 数		3市22町9村	1市4町1村	2町2村	5町2村	2町1村	1市5町1村	1市3町2村	1町
		58	9	8	6	7	17	10	1
経営別事例数	個人営	22	4	4	—	4	3	7	—
	共同営	36	5	4	6	3	14	3	1
	0.5km以下	9	1	3	—	2	1	2	—
	0.5～1.0	9	—	1	—	—	6	2	—
	1.0～3.0	18	4	2	—	3	5	4	—
住居、部落から放牧地までの距離別事例数	3.0～5.0	12	3	—	3	1	3	2	—
	5.0以上	6	—	1	3	—	1	—	1
	範 囲(ha)	0.2～240.0	0.5～33.0	0.6～22.0	15.0～240.0	0.2～65.0	10.3～50.5	1.5～40.0	—
林 地 面 積	総面積(ha)	1,629.3	137.7	83.6	597.2	186.8	438.1	93.7	92.2
	5ha以下	17	3	4	—	5	—	5	—
	6～10	4	—	—	—	1	—	3	—
	11～20	17	3	3	1	—	10	—	—
	21～30	9	—	1	1	—	6	1	—
	31～50	5	3	—	1	—	—	1	—
51以上	6	—	—	3	1	1	—	1	
樹 種 別 例 数	スギ	46	7	8	5	5	13	7	1
	ヒノキ	29	4	4	5	4	8	3	1
	マツ	13	—	1	2	—	8	1	1
	クスノキ・ナラ	21	1	—	2	1	9	7	1
	その他	12	1	—	3	2	3	3	—
放 牧 頭 数	範 囲(頭)	2～156	3～70	2～35	13～70	5～45	5～156	2～47	—
	総頭数(頭)	1,695	356	162	263	129	570	110	105
	5頭以下	10	1	1	—	1	2	5	—
	6～10	7	—	1	—	3	1	2	—
	11～20	14	1	3	1	1	6	2	—
	21～30	7	3	—	1	—	3	—	—
放 牧 時 期	31～50	12	1	3	2	2	3	1	—
	51以上	8	3	—	2	—	2	—	1
	入牧時期	2月下～6月中	3月下～6月中	4月上～6月中	4月上～4月下	3月下～6月上	4月上～5月中	2月下～6月中	—
	2月	1	—	—	—	—	—	1	—
	3月	4	1	—	—	1	—	2	—
と 期 間 (周年放牧を除く)	4月	13	1	1	6	—	2	3	—
	5月	27	2	3	—	4	15	3	—
	6月	8	3	2	—	2	—	1	—
	8月下～12月中	3	—	—	—	3	—	—	—
	8月	2	—	—	—	1	—	1	—
	9月	15	1	5	4	2	1	2	—
	10月	30	5	1	2	1	15	6	—
	11月	3	1	—	—	—	1	1	—
	12月	3	—	—	—	—	—	—	—
	120日以下	4	—	1	—	3	—	—	—
放 牧 日 数 別 例 数	121～150	5	—	1	—	1	1	2	—
	151～180	14	5	3	1	2	1	2	—
	181～210	19	—	1	3	—	13	2	—
	211～240	7	1	—	2	1	1	2	—
	241～270	4	1	—	—	—	1	2	—

表二 放 牧 の 得 失

区 分		総 数	福 岡	佐 賀	長 崎	熊 本	大 分	宮 崎	鹿 児 島
林業面	木の成育の良いた	21	5	5	3	—	3	5	—
	刈省損の可傷	33	7	5	3	3	8	7	—
	木の放牧施設周辺	16	4	1	2	2	3	4	—
畜産面	飼育労働力の節約	26	8	4	2	3	3	6	—
	格頭の飼養	19	4	6	2	2	1	4	—
	多頭子の	5	—	1	—	—	2	2	—
	子の	6	2	1	1	—	1	1	—
	の	4	—	1	3	—	—	—	—